

## Y15b 全天モニタ画像の位置較正

小澤友彦 (紀美野町文化センター), SMOKA グループ

SMOKA では全天モニタ画像公開システムを開発し、2014年3月より運用を続けている。画像の有効性をさらに高めるべく位置較正を施したので報告する。

全天モニタ画像は空全体を1、2分に1枚の頻度で定点撮影しているため、星の動きや明るさの変化などを捉えることができ、研究や教育に有益性が高いものである。この全天モニタ画像に位置較正を施すことによりその有用性はさらに高まる。例えば、長期に渡り同じ星の明るさの変化を調べたり、流星の位置を測定したり、自動的に星や星座の名前を画像に付加することが容易にできるようになる。

本研究では2015年秋季年会 Y06b にて報告した全天画像用座標較正ソフトウェア (Levenberg-Marquardt 法による非線形最小二乗法を利用) を用いて座標較正を行った。本予稿提出時においては、東工大 MITSuME 望遠鏡明野観測所の画像の大部分について位置較正を終え、ひきつづき岡山天体物理観測所の画像について作業を進めている。位置較正の結果は JPEG の全天モニタ画像を FITS に変換し、WCS として付加することで公開する予定である。

本講演では、位置較正の手法と結果の評価や FITS-WCS の作成について議論するとともに公開システムで提供するサービスについても紹介する。

尚、本研究は科研費 (25350330) の助成を受け行われたものである。